

## 平成7年度 日本鉄鋼協会 次世代鉄鋼奨学助成の募集案内 (第1回実施分)

本会では、将来的に大学および国公立研究機関等における鉄鋼関連の教育者あるいは研究指導者を目指している優秀な大学院博士課程在学者を奨学する「次世代鉄鋼奨学」事業を、平成7年度から創設し、平成8年度から助成金の交付を開始いたします。

申請希望者は所定の申請書類を申請受付期間内にご提出下さい。なお、申請書は本会(下記12項参照)までご請求下さい。

### 1.趣旨

日本鉄鋼協会の「次世代鉄鋼奨学」事業は、大学および国公立研究機関等における鉄鋼関連の教育者あるいは研究指導者を目指している優秀な大学院博士課程在学者を奨学することにより、鉄鋼関連の教育者あるいは研究指導者の後継者候補を広く養成しようとするものである。

なお、本募集への申請に際しては、博士課程における指導教育者(本会の会員で、本会が関わる分野で研究をされている)からの推薦を必要とします。

### 2.採用予定数

原則として、毎年4名以内とします。

### 3.助成期間

原則として、博士課程在籍の1年次生から3年次生までの3年間とします。

### 4.助成金額

- 1) 月額125,000円。
- 2) 給付であり、返済は不要です。

### 5.申請資格

- 1) 博士課程に進学を目指している、修士課程1年次に在籍している学生。
- 2) 他の奨学金の受給は関知しません。

### 6.申請受付期間

平成7年2月1日～2月28日

### 7.申請手続き

次世代鉄鋼奨学助成申請書で申請して下さい。

### 8.選考

- 1) 平成7年3月頃に、第1次選考を本会の学術準備小委員会が行います。
- 2) 平成7年4月頃に、最終選考を本会の総合企画会議助成委員会が行います。

### 9.交付決定通知

- 1) 選考の結果は平成7年4月末頃に本人宛に通知します。
- 2) 助成者名、助成期間を会誌(平成7年7月号の予定)に掲載します。

### 10.助成金の交付

- 1) 本助成金は平成8年4月から毎月交付します。
- 2) 本会の学生会員であることが必要です。

### 11.助成金の使途・報告

助成金の使途については問いませんが、毎年研究内容に関して経過報告を助成委員会に対して行って頂きます。

### 12.申請書類の送付先及び連絡先

(社)日本鉄鋼協会 助成委員会 事務局  
〒100 東京都千代田区大手町1-9-4 経団連会館3階  
TEL. (03) 3279-6021 (代表) FAX. (03) 3245-1355

## (社)日本鉄鋼協会創立80周年記念特集号発行のお知らせ

# 「21世紀に向けて—鉄鋼技術10年の軌跡」

「鉄と鋼」Vol.81(1995)No.4(4月号)

(社)日本鉄鋼協会では、平成7年に創立80周年を迎えるにあたり、その記念事業の一環として、「鉄と鋼」Vol.81(1995)No.4(4月号)において、創立80周年記念特集号「21世紀に向けて—鉄鋼技術10年の軌跡」を発行いたします。本誌は、最近の10年間におけるわが国の鉄鋼技術及び学術の進歩の跡を展望し、世界の趨勢に対する位置付けを行う記事を収載しております。またISIJ情報ネットワークとして、わかりやすく、使いやすく、面白く、そして記録性を高めるための記事を企画いたしました。過去10年間の鉄鋼技術の進歩動向及び将来的な展望をまとめた貴重な資料として、ご愛読下さい。(「鉄と鋼」を購読しておられる会員の皆様へは、自動的に送付されます。)

### 【予定する目次】

1. 巻頭言
2. 緒言—21世紀へ向けて、鉄鋼技術の目指すべき方向—
3. 製鉄
4. 製鋼
5. 加工
6. 計測・制御
7. 表面処理
8. 材料(含分析)
9. 境界領域

### ISIJ情報ネットワーク

1. 座談会「鉄鋼技術の現状と21世紀への展望」
2. サクセスストーリー
3. 鉄に魅せられた人
4. 私の鉄—夢ロマン—
5. 図表
6. 鉄鋼生産技術年表
7. 産業別鉄鋼製品年表

予定総頁数 330

会員欄	
入会	
(94年)	
安倍 理枝	岩本 博之

小室 真	小橋 眞	柴田 悦郎	関 和典	竹内 康臣	竹内 俊二郎	富安 健	鳥山 寿之
永橋 新一	中村 正秋	奈良井 慶	松田 安弘	平上 大輔	竹中 弘明	鈴木 篤	船見 国男

退会	
(94年)	
有馬 慶治	向井 達夫
稲垣 貞男	佐藤 幸男
松岡 雅典	

死亡退会	
(94年)	
伊藤 康道	山岸 憲一郎
北野 葉子	後藤 貢一
馬場 隆壽	

死亡退会	
(94年)	
御冥福をお祈り 申し上げます	
三井 太信	